

日本建築学会・東海支部・主催，名城大学自然災害リスク軽減研究センター（NDRR）・共催

2016年度・親と子の都市と建築講座（創立130周年記念事業連動企画）

「建築から考える災害への備えと体感的学習」報告書

2016年7月31日（日）13:00～16:00 名城大学天白キャンパス・構造耐震実験室にて、日本建築学会東海支部主催（共催：名城大学自然災害リスク軽減センター：NDRR）の「2016年度・親と子の都市と建築講座」が、同学会創立130周年記念事業連動企画として実施された。担当した支部構造委員会では「建築から考える災害への備えと体感的学習」として、小学校高学年生親子向けに企画し、親子9組の合計20名と名古屋市からのオブザーバが参加する講座となった。

最初に日本建築学会（以下AIJ）東海支部構造委員会委員長の武藤厚先生より講演者の主旨説明と講師の紹介がなされ、引き続いて“大地震が来たら家や工場はどう揺れるの？”という項目で、同室の実験スペースで実施された既往の実験事例（木造住宅の一部、工場の吊り天井、免震建物のピットカバー、等の実験記録動画による説明や、集合住宅の揺れの解析結果について解説がなされた。

次に、隣接する実験スペースにて、3次元震動台に仮設で6畳の床を設置し、“直下型地震をリアルに体感して考えてみる”と題し、1995/01/17阪神淡路大震災及び2016/04/16熊本地震（本震）の揺れについて、それぞれの参加者の安全性を確認した低減率を考慮して体感して頂いた。参加者らは一応に、予想を超える大きさの揺れと、実際には不意打ちで来ることへの備えの重要さが身に染みたとの感想であった。並行して、（一社）わがやネットの3名のスタッフ+ボランティア2名の方々により、“窓ガラスの飛散防止フィルム貼りの実演+体験”、および“家具の耐震対策に関する下地センサーとビス打ちの実演+体験”があり、実際に手を動かしてみるとコツが解って役に立ったとの感想であった。休憩時間には、ティータイムに併せて“非常食サンプルの試食や非常用持ち出し袋の確認”などを行い、楽しいひと時を過ごした。

続けて、“避難や水害時の対応についてのアイデアに触れる”と題して、(株)阿竹研究所・阿竹克人講師から、非常にコンパクトな折り畳み式の水害時の避難ボートの体験や、避難所生活での子供が和らぐ秘密基地のような組立式のシェルターのアイデアに基づくキットのアイデアに触れた。

全体を通して、いくつかの具体的な体験をすることにより、参加した子供や親の防災意識の向上や柔軟な発想に多いに刺激を受けたとの感想であり、盛況で終了することが出来た。なお、この様子は同日夕刻の民法のニュース番組で紹介された。



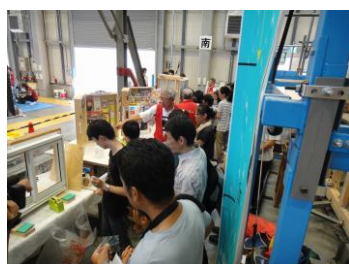
全体の講演の様子



直下型地震の体験の様子



集合写真



フィルム貼りや家具固定の実演



展開式の避難ボートの実演